平成22年度 第4回富田林市都市計画審議会 議事録

平成23年2月18日開催
市役所2階全員協議会室

●出席者

(富田林市都市計画審議会委員)

中上隆三、下野恵子、岸本吉夫、石原三和、吉村善美、鈴木憲、増田昇、阪野拓也、若林学、山内庸行、渡邊ヒロミ、鳴川博、高山裕次、川谷洋史、奥田良久、西川宏郎、吉年千寿子、來山利夫、山本剛史、司やよい (20名)

(事務局)

浦俊樹、仲野仁人、森木和幸、原田揚子、葉山勉、植木謙次、鷹野友美、北浦典義、余田祐二、岸田直樹、嘉田裕治、樋渡貴幸、山西幸夫、塩屋基忠、西田幸司、北井則和、奥野治雄、阪本朗、青木昭和、溝上進、福富規博、福田澄代、森島彰、森口賢一、小森和記、石田晴彦

●議事録

《事務局：仲野》

それでは、定刻となりましたので、ただ今から平成22年度第4回富田林市都市計画審議会を開催させていただきます。委員の皆様方には、大変お忙しいところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、まず、お配りしております資料の確認をさせていただきます。会議次第、委員名簿、配席図、議案書、資料を事前に配付させていただきます。

配付資料に漏れなどはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

本日は、委員総数21名中、19名にご出席をいただいております。審議会条例第5条第2項による定足数をみたしておりますことをご報告させていただきます。

なお、中西委員におかれましては、本日はご欠席との連絡をいただいております。また、下野委員におかれましては、若干遅れるということになっております。

また、本日の案件であります、南部大阪都市計画公園(若松中央公園)の変更につきまして、関係課が同席させていただきますので、ご報告いたします。

ご承知のとおり、本審議会の議事は、本市の「会議の公開に関する指針」により公開することとなっておりますので、あらかじめご了承願います。

議事に入ります前に、事務局よりお知らせがございます。委員の皆様のお手元にマイクがございます。ご発言の際には、マイクのボタンを押していただいております。よう、よろしくお祈いします。

それでは、以後の進行は増田会長にお願い申し上げます。

《議長：増田会長》

皆さんおはようございます。これから平成22年度第4回の富田林市都市計画審議会を進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

本日の案件でございますけれども、付議案件が1件と報告案件の3件となっております。それでは次第に従いまして進めてまいりたいと思います。

まず、「議第1号 南部大阪都市計画公園（若松中央公園）の変更について」、これは付議案件でございます。事務局より内容の説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

《事務局：原田》

まちづくり推進課の原田です。よろしくお願いいたします。

それでは、「議第1号 南部大阪都市計画公園（若松中央公園）の変更について」説明させていただきます。

議案書の1ページ及び資料の1ページとなります。お手元の資料と同じものを、前のスクリーンにも映しておりますので、こちらをご覧ください。

今回変更する都市計画公園は若松中央公園でございます。現在の公園の位置はこちらとなります。こちらが富田林駅、国道の旧170号線、府道富田林五条線となっております。公園の面積は2,800平方メートルで、昭和47年に都市計画決定をしております。

前回の都市計画審議会で、報告案件としまして、その時点でのゾーニング案をこちらのよう、公園、市営団地、公共施設としてお示ししておりました。

その後、若松地区の再整備基本構想が進み、現在のゾーニング案はこちらのようになっております。図で、赤く示しているところが、新公園を配置する予定の場所です。緑の部分が市営団地、青の部分が公共施設、うす紫の部分が保育園用地、茶色で示しておりますところが駐車場等土地利用検討地、黄色で示しておりますところが新設道路となっております。

こちらのゾーニング案のうち、都市計画公園についてですが、位置が、緑色の点線で示しております現在の場所から、赤色で示しておりますこちらの位置に変更予定でございます。

新公園の形状につきましては、現在の公園よりも形が整ったものとなります。なお、面積につきましては2,800平方メートルのまま変更はございません。また、公園に接する道路についてですが、現在の公園は、西側の府道富田林五条線1方向のみでしたが、新公園になりますと、西側、南側、東側の3方向に接することとなります。また、隣接する公共施設との一体利用を考えております。

都市計画公園の変更の予定についてですが、平成23年度にまず現在の公園を撤去いたしまして、平成27年度にこちらの方に仮設公園を設置します。その後、平成37年度に新公園を設置する予定でございます。

なお、前回の都市計画審議会でもご意見をいただいておりますが、地元との協議についてでございますが、地元説明会を平成22年4月から23年1月にかけて4回行っておりますが、都市計画公園についての意見は特にございませんでした。

また、平成23年1月4日から、1月17日にかけて都市計画変更案の公告縦覧をいたしましたが、意見等の提出がなかったことを合わせてご報告させていただきます。

最後に都市計画公園の位置変更に関する、都市計画決定のスケジュールを説明いたします。平成22年10月28日から、大阪府との事前協議、12月14日に大阪府への意見照会を行い、平成22年12月27日に府との同意協議が終了いたしました。その後、案の公告縦覧を平成23年1月4日から2週間、17日まで行い、先ほど申し上げましたとおり、意見の提出などはございませんでした。本日の都市計画審議会がこちらにあたりまして、本審議会で議決いただきますと、平成23年3月に都市計画決定の予定でございます。

以上が都市計画公園の変更についての説明でございます。よろしくご審議いただきますよう、お願いいたします。

《議長：増田会長》

ありがとうございます。ただいま、ご報告をいただきました「議第1号 南部大阪都市計画公園（若松中央公園）の変更について」、何かご質問、ご意見等ございましたら、いかがでしょうか。

《奥田委員》

いくつかお伺いをしたいと思うんですけども、まず、先ほど地元の説明会で意見がありませんでしたという報告でした。議会の中でも、地元とはまちづくり協議会で協議をするというふうに答弁をされておったように思います。地元への説明じゃなしに、地元との協議というのが為されたのかどうか。それから、このゾーニング案の中で、それぞれ市営団地だ、公共施設だ、駐車場だというふうに示されておりますけれども、それぞれの規模ですね、内容というのか、今はどの程度まで検討されているのかということも教えてほしいんですけども、とりあえず。

《議長：増田会長》

2点ございまして、地元説明会というよりも、むしろまちづくり協議会の中で、どういう協議を行ってこられたかということが1点目で、2点目は各々の施設の規模内容が今の段階でどの程度煮詰まっているのかという2点ご説明いただけるのでしょうか。事務局の方よろしくお願ひしたいと思ひます。

《事務局：岸田》

住宅政策課の岸田です。よろしくお願ひします。それではお答えさせていただきます。第1点目のご質問ですが、「地元説明ということの説明であったが協議は為されているのか」という点につきましてですが、先ほど原田の方から説明させていただきました平成22年4月26日から23年1月13日までにかけての4回の説明会というような形になっておりますが、これにつきましては、地元のまちづくり協議会の役員の方々と説明を兼ねて、その役員の方々にも意見をいただくというような説明会を兼ねた協議の場を持たしていただいております。

第2点目の「ゾーニング案の中のそれぞれの規模」ということですが、今現在、今年度におきまして、再整備の基本構想を策定中でありまして、まだ明確なお答えというのができな

いんですが、今のところ考えております規模につきましては、住宅につきましてこの対象となる住宅の入居戸数、入居できる規模の戸数、約200戸超の住宅戸数をこの住宅エリアに建設したいと考えております。

また、公共施設につきましては、対象となる公共施設が児童館と人権文化センター、老人憩いの家、葛城温泉、みどり保育園ということになっておりまして、今の案としましては、みどり保育園を今回ご審議いただく若松中央公園の方に建設させていただきたい、残りにつきましては、児童館、人権文化センター、老人憩いの家、葛城温泉これらの機能を兼ね備えた合築した施設を北側の公共施設ゾーンに建設したいと考えております。

なお、この4施設、今現在は施設が点在しているわけなんです、今回の案では北側に集中することによりまして、今の規模よりも若干コンパクトな形でより機能的な公共施設にしたいと考えております。以上です。

《奥田委員》

まちづくり協議会との関係やねんけど、公園の場所をどこにしましょうかということだけじゃないと思うんやね。今言われたように200戸を超す住宅の確保だとか、児童館、人権文化センター、憩いの家、いろんな施設の配置、存廃も含めて、その地域のまちづくりを本来協議する場というふうにするんやけれども、ところが、説明会をされて特段意見もございませんでしたということで、これだけの事業内容、自分たちのまちづくりをどない進めるのかということが、4回の説明会で意見もなく終わったんですか。

《議長：増田会長》

事務局、いかがでしょうか。

《事務局：岸田》

この4回の説明会につきましては、公園の変更だけではなく、この地域の建て替えに対する基本構想についての説明なり協議をさせていただきました。やはりその中では、住宅にお住まいの方が仮移転しなければならないのかどうかとか、そういった質問なり協議なりはさせていただいております。

それで特に意見がなかったということにつきましては、公園の移転に関することについての意見がなかったということでありまして、この基本構想全体に対するご意見というのは、さまざまいただいております。以上です。

《奥田委員》

地元の住民の方々の意見が反映された再整備基本構想になっておると、市が考えた案から地元協議を経て、今のこの構想になったと、地元の意見も取り入れられて今日の提案になってるというふうに理解してもいいんでしょうか。

《議長：増田会長》

事務局、いかがでしょうか。

《事務局：岸田》

この4回の説明会では、その都度その時点でできている基本構想的なプランをお示しさせていただきまして、それについてご協議をいただいております。今回お示しさせていただきましたゾーニング案につきましても、地元の方とも協議をしております、一応地元の方としましても、この線でおおむね特に問題はないということをご意見としていただいております。

《奥田委員》

これだけ大規模な再整備の事業ですんで、十分地元との合意を取り付けないと途中で頓挫するってことになりかねないわけですから、地元との協議っていうのを僕は大事にさせていただきたい。そこでちゃんと地元合意なつた分を今日提案されてるのかとしつこく聞くのはそこなんです。もう一遍そのことについては、地元合意を整えて今日提案されてると。「おおむね」とか何かおっしゃってるんで、何が合意になっていないのかなど。その辺は不安の残る答弁でしたので、その辺をちゃんと確認しておきたいと。それからもう一つ、駐車場というのは別に2か所設けられるんですけども、これ住宅の駐車場は駐車場として、その住宅の敷地内に当然確保されるんでしょうね、この駐車場、2か所に分かれたのは何なのかなど。

それから平成23年に撤去をして、27年に仮設で、37年っていうたら、えらい長い計画で、これほんまにできあがるのかなという心配もあるんですけどもね。この辺は法的な問題も含めて、これでいいのかなという心配があります。以上です。

《議長：増田会長》

いかがでしょうか、3点ほどご質問がありました。

《事務局：岸田》

「おおむね」という表現をさせていただきまして、どうもすみませんでした。この23年1月13日に地元まちづくり協議会と協議させていただいた内容につきましては、今お示しさせていただいておりますゾーニング案をお示しさせていただきました。それで、このゾーニング案で問題ないということのご意見をいただいておりますので、今回この審議会の方にかかけさせていただきました。先ほどの「おおむね」という表現は、建物の規模だとか、そういったものをおおむね合意いただいたということでご理解いただきたいと思います。

《議長：増田会長》

都市計画公園の位置変更については合意という形で確約いただいていると。ただし、その残りの部分の整備計画については、まだこれから順次煮詰めていくというんですか、さらに施設の内容であるとか質の問題であるとかいうのは、まだまだこれから詰めていくというよな。ゾーニングに対する合意という意味だということでしょうか。

《事務局：岸田》

はい、そうです。

第2点目の駐車場でございますが、住民がお住まいになられる住宅内の駐車場につきましては、その住宅の敷地に設ける計画をしています。それとこの中での駐車場と利用検討地につきましては、公共施設の合築及び市営住宅の高層化を考えておりまして、その中で生み出した土地を公共的な駐車場も含めて、有効利用できる土地にできるように考えております。

それから第3点目、長い計画でということになっておるわけなんです、対象となりますのが住宅で11棟、それと公共施設で5施設の総合的な建て替えということになりますので、やはりその規模が大きいということで、計画としては37年という形になっておりまして、その中でできる限り仮設公園を早く設置できるようなプランを考えてございます。

ですので、確かに建物の老朽化というのは今後どんどん進んでいくこともございますので、やはり、公共施設、住宅の建て替えは必要だと考えております。以上です。

《議長：増田会長》

よろしいでしょうか。ほか何かご意見ございますでしょうか。

《中上委員》

この案ですね、公園の撤去が23年度で仮設が27年度に設置されると。ということでその間は公園がなくなるわけですね。そういうことでよろしいですか。

《議長：増田会長》

いかがでしょうか。

《事務局：岸田》

23年度に撤去しますと、次27年度で仮設公園を設ける間につきましては、やはり公園の空間というのは一時なくなるようになるというのは事実です。ただ、その対応としましては、周辺の公園を利用させていただきたいということを考えております。以上です。

《中上委員》

私なんか考えるんでしたら、先に仮設公園を作って、それから撤去した方がいいんじゃないかと思ったりするんですけどね。その辺のところはどうなんでしょうか。

《議長：増田会長》

いかがでしょうか。

《事務局：岸田》

限られた敷地の中で、この計画を進めていかなければならないというのがございます。それで、今ある空間を利用して、その空間に一番目の建物を建てる、それで、その建った建物の古い施設をつぶして、そこにまた次の建物を建てるというような、ぐるぐる回すような形での計画を進めさせていただいております。ですので、どうしてもこの地域には先に仮設公園を設けるような空間っていうのが、どうしても取れなかったというのがございますので、

地域の方にはご不便をお掛けするのですが、数年間はご辛抱いただきたいと考えております。

《議長：増田会長》

よろしいでしょうか。ほかいかがでしょうか。

《山内委員》

特にこの議案について異議はありません。教えていただきたい点が直接的なものが1つと間接的な点が1点あります。

1つは、直接的というか、説明の中で、公園と総合的な施設との一体利用ということをおっしゃったのが、公園とどう一体利用なのかなど、私の耳にはそう聞こえただけかもわかりませんが教えていただきたい。

それから、もう一点はあくまで関係するだけですから、適当にお答えいただいたらと思いますが。こういう審議会に出てまして一番思うのは、答申を受けたことの答えだけということで非常に歯がゆい思いをいろんなところでします。

今、富田林としてはお金がどんどんなくなっていく中で、あまり派手でない再整備とかいろんなメンテナンスの仕事がどんどん増えていくというのが我々もわかっています。ただこういうふうに部分的、私は金剛地区から出て、町総代会っていうたら全体を覆っているわけですが、一体、全体はどう考えていただいているのか。たぶん、都市計画マスタープランとかでちゃんと書いてあるんだと思うんですけども。こういう質問も本当はこういうところでは憚られるかもしれませんが、市長から諮問も受けてないねんから。しかし、それはおかしいなというのが私、常々感じております。

いずれにしても、お金のない中で非常に大変なことだと思うんですけども、限られたお金がどういうふうにこういう再整備に、どういうウエイトで、どういう全体像を持ちながらやっているのかと。特にいろんな形で指定管理が進んでいく中で、私の一市民としての懸念は、まちとしてやるべきことがバラバラになっているような気がするんですね、民営化という形の中で。民営化でもええんですけども、誰かが全体像をつかんでおく必要があると、これはやはり議会であり、行政であると思うんですけども。そのためのマスタープランだと思うんですが。お金もない、人も減っていく状況下の中で、こういうメンテナンスっていうやや後ろ向きな、でも大切な必要、そういうものを全体としてどのように考えておられるのか、よろしければお教え願えたらと思います。以上です。

《議長：増田会長》

1番目の問題は答えられるでしょう。2番目の問題は非常に難しい問題だと思います。極端なことを言うと、今の財政難の中で長期的行財政のプランをお持ちなのかどうかというような話と、その中で公共事業というのをどう考えているのかというような話があればということですけども、なかなか担当部局だけでは、ようお答えならないかもしれませんが、お答えできる範囲内でお答えいただければと思います。まず、1番目の一体利用というのはどのようなものを想定されているのかお答えいただけたらと思います。

《事務局：原田》

一体利用ということなんですけれども、例えば公園と公共施設の位置が、全く離れたところになるっていうことになりますと、それぞれ単独での利用という形になってしまうんですけども、隣接した場所に配置しますことで、例えば駐車場を共用で使ったりですね、あとその公共施設を使った方も公園をそのまま利用できるような形ということを考えてまして、今回築される予定の公共施設の中には、児童館とかお子さんがよく利用される施設もございますので、今現在もその児童館の児童の方が利用されている実情が多いということもありまして、そういう方が近くで公園と一体的に利用していただけるようにというふうに考えております。1点目はこういう形の回答でよろしいでしょうか。

2点目のことなんですけれども、なかなか私だけの意見というのは難しいんですけれども、一応こちらの再整備につきましては、都市計画マスタープランの方でも構想としてはもちろん持っていてまして、耐震化とか老朽化っていう問題も緊急的な話がございますので、もちろん安全安心という意味で最優先されるべきだというふうには考えております。

マスタープランの中でも、先ほどおっしゃった限られた財源の中ですべてのことをしていくってというのは難しいですけれども、その中で前回改定させていただいたマスタープランの中で、より重点的に進めていく事業ということで、しなければならない整備の中でも、特に重要だと考えるものを主に挙げております。今回の再整備に関しましては、その重点項目として挙げさせていただいている部分でございますので、特に耐震化とか命に係わる問題も含めて優先的に進めていきたいと思っております。もちろん富田林市全体で考えて、これだけ集中という部分もあるかと思うんですけども、順次重点項目に挙げさせていただいた部分から取り組んでいきたいというふうに考えております。

《議長：増田会長》

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

《山内委員》

ものすごく話は飛びますけれども、例えば今のいろんなところで地震とか火山が、火山研究だっているんな役所が3つほどやっているらしいですよ。私自身は行政自身が縦割りであるのはこれはやむを得ない、どこの企業も同じなんだと思うんですが、私の質問は、ただ単なる耐震だけでなしに、例えばすばるホールとか、あるいは図書館とか、あるいはそういういろんな公共施設、あるいはもっと根源的には市民の文化面と福祉面、たぶんまちづくり政策部ってのは、あくまで道路とか公園を中心にやっておられると思うんですね。だからまちづくり政策部だけでやっておったんでは務まらないんですよ、もう。だから全体がマスタープランを作られて、本来ならこの都市計画審議会には、道路とか公園だけでなしに、全体の福祉をどう考えているのか、本当のマスタープランを協議するような場が僕は必要だと思うんですね。あまり時間を取るのが今日の目的じゃありませんけれど、また、いつかの審議会、ここ以外にあまりそういうこと議論する場がないと思いますんで、一度問題提起を事務局の方から、あるいは会長の方からしていただければと思います。以上です。

《議長：増田会長》

最後のはご提言ということで承っておくというふうにしたいと思っておりますけれども。

《西川委員》

根本の話を覆すようなつもりはぜんぜんないんですけれども、例えば公園ですけれども、これ道路に面してると思うんですよね。ここを利用する方、じいちゃんばあちゃんが孫を連れて行って、滑り台で遊んでいるとかですね、確かに児童公園で小学生たちがテニスボールか何かで野球したりですね、そんなことも利用してると思うんですけれども、もうちょっと街の中に、近いところに造るような計画もなかったんかとかですね、何かあまりにも道路に面してて、ここへ行くのに確かに緑色の住宅に住んではる人は便利かわかりませんが、もうちょっと中の方に住んでいる人にとったらどうなんかなと思ってみたりですね。この前は当然店屋が並んでるんじゃないかなと思うんですけれども。

そんなことも当然計画を立てて、こういう計画を立てられたかと思うんですけれども、都計審に来るまでに随分時間かかって協議されてると思うんですけれども、私としたら、もうちょっと前のところで、「こんなこと今計画立ててますけれども」と。もう、ほとんど終わった状態で根本の話を覆すようなことになると、とんでもないことになりますので、言う機会というのはほとんどないんですけれども、もうちょっとこの審議会が、そういうことも言えるような、前もっての会議にしていいただいたら。来年度どういうふうになっていくかわかりませんが、根本の話をしたいなと思うんですよ。

反対するつもりは全然ないんです。ありがたいなと思っておりますけれども、先ほども奥田先生から言われましたけれども、こんなに時間かかるのかなと。あるいは基本的には、この公園の仮設を造ったら、仮設に金かかりますよね。そうしたら、この赤い色、たぶん個人の駐車場のところですかね——じゃないんですか。どこの場所になっているかちょっとわからないんですけれども、直にそんなものは造ることはできないかなと思ってみたりですね、非常に疑問な部分がたくさんあってですね、それを話し合うような、当然市の職員がいろいろと考えられて、町の人たちと相談されてこういうふうになってますので、根本の話をして申し訳ないんですけれども、次回からはその辺のところを、ぜひ会長さんに考えていただけたらなと思っております。

《議長：増田会長》

わかりました。お二人の意見とも私自身にも責任のあるというようなことだと思います。

富田林市の都市計画審議会の会長を引き受けさせていただいた時から少しずつ改善させていただいているのは、一つは報告案件という形で事前に、早めにここに報告いただいて、報告案件の段階の時に大分議論ができて、今おっしゃるように付議の段階に来ると、そこで否決をすると大変なことになってしまうという段階ですので、極力早めにここに報告案件という形で報告いただいて、意見交換ができるようにという形では少しずつは改善をしているつもりなんですけれども、まだまだそのあたりが遅れているのかもしれない。

そういう面では、事務局ともご相談させていただいて、極力早い段階で意見交換をして、案に反映できるような段階でここに出せないかどうかというふうなことについては、少し事

務局ともこれから詰めていきたいというふうに思います。ありがとうございます。

それで山内委員から話出てましたのは、これはたぶんどこで議論するのかという話なんでしょけど、例えば住宅政策については住宅マスタープランがあって、公営住宅のこれからの更新というのを10年計画をお持ちの中で計画をされているでしょうし、我々としては都市計画マスタープランの中での議論をしていって、主には都市計画事業とそれと都市計画法ですね。都市計画法というのは2つの側面を持ってて、事業法という側面ともう一つは土地利用の規制法という2つの側面を持っているんですね。事業法の方の側面というのは、ここでいま議論していますように都市計画公園を造ったり、あるいは都市計画道路を造ったり、あるいは区画整理のエリアを指定したりという事業を進捗させるための事業法的側面と、もう一つは、今日も後から出てきますように線引きであったりとか、用途地域であったりとか防火地域・準防火地域であったりとかいう法的な土地利用全体環境を向上させるために規制をかけて、部分の向上ではなくて、全体環境をどう向上さしていくかという意味で各種の土地利用規制をしていく、あるいは建築規制をしていくという側面と両方持っているんですね。

これが扱える範囲という部分が、都市計画審議会ですら扱っている部分。たぶん今ご指摘いただいた話は、もっと上位の話の中で富田林の毎年の予算計上の中で具体的に公共事業というのをどう位置付けながら、長期の中でどういう都市経営の戦略として展開していくのかという、そのあたりとここは連動しないとイケないんでしょけど、ダイレクトに、すぐにそれをどう連動させるのかというのはなかなか難しい話で、先ほど事務局の方からご指摘いただいたように、我々ここでできる話というのは全体計画としての都市計画マスタープランの中で選択と集中みたいな形で、10年間の中で優先すべき事項と重点的にやっていくべき事項を明らかにしながら、長期スパンの中で展開をしていくという、そういう努力を我々はしていないといけないと思います。

《山内委員》

会長のおっしゃる通りだと思います。だからこれが審議会の委嘱を受けた形であることのも最善、できる範囲だと思うんですけども、今の西川委員の意見もよく考えてやっていると、結局は審議会が審議会どおりやっておって、まちがよくなっていくんかという疑問なんです。

だからある一定の時点で審議会構想が作られて、一定の成果を上げてきたんですけども、今の時代、こういう審議会をずっと積み重ねていって本当に何か解決していくんか。もちろん整備はされます、でも、今の整備はちょっとお話しあったように、もうちょっと全体的に考えて、ここも問題解決するけども、まち全体の問題も解決するようなふうには無い金を使わなかん状態にあるわけですね。そうするとそれを本当にこういう形で、この与えられた限界はおっしゃるとおりなんですけども、そのままにええのかという、こんなところでいうような話ちゃうんでしょけど、やっぱりそれは感じるんですね。

《議長：増田会長》

それは我々の限界と同時に、やはり都市計画マスタープランというのは何も今言った法的な側面と事業的な側面だけを扱っているのではなくて、もう少し長期的なビジョンの中でまち全体がどうあるべきかという議論を都市計画マスタープランの方でやっておりますので、つ

い最近改定したところですがけれども、必要に応じて全体を常にローリングして見直しができるような仕組みで、我々自身が全体像を常にとらえながら展開をしていくというようなことを、やはりこれから展開していかないといけないのだろうと思います。

一旦、マスタープラン作って10年間それでもう終わりという話ではなくて、3年なり、5年なりのローリングをかけて常に全体像を見通しながら、部分の最適化をしていくというふうなことの取り組みをしないといけないだろうと思います。ご指摘の通りだと思います。

その辺も少し事務局の方ともご相談させていただきながら、マスタープランをつい最近作ったからもう10年まったく見直しませんという話ではなくて、常に必要に応じてそれを見直していくというふうなことも少し事務局ともご相談させていただきたいと思います。ありがとうございました。よろしいでしょうか。

この議論につきましては、今日の議論としましては都市計画公園の位置を決定するという話でございます。各委員からもご指摘いただいておりますように、その他のまだゾーニングレベルが地元と合意した状況でございますので、後の整備計画を進捗させていくためには、やはりまちづくり協議会の方々と十分な協議を重ねられながら事業を進捗していただきたいというのが当審議会の意見だと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、議第1号 南部大阪都市計画公園（若松中央公園）の変更につきまして、原案どおり可決するということに関しまして、ご異議ございませんでしょうか。

《各委員》

異議なし。

《議長：増田会長》

はい、そして異議なしということでございますので、原案どおり可決するということになつたと思っております。どうもありがとうございました。

それでは、次第の3番に入りまして、報告案件でございます。3つございまして、第1番目の報告案件から順次進めてまいりたいと思っております。「南部大阪都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更について」、事務局の方からご説明をよろしくお願ひしたいと思っております。

《事務局：葉山》

まちづくり推進課の葉山と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、「報告1」としまして、「南部大阪都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更について」、報告させていただきます。

では、前面スクリーンを用いて説明いたします。スクリーンが見にくい場合は、画面の右上にお手元の資料のページを表示させておりますので、そちらも併せてご覧ください。

かねてから南部大阪都市計画区域の整備、開発及び保全の方針、いわゆる都市画区域マスタープランの変更につきましては、本審議会ですべてたびたびご報告等させていただきましたが、このたび大阪府から原案の意見照会がございましたので、ご確認のため、改めて説明させていただきます。

では、こちらのスケジュールをご覧ください。まず、この都市計画区域マスタープランで

すが、ここでは省略しまして「区域マス」と呼ばさせていただきます。この区域マスの変更に つきましては、大阪府の決定事項となっており、昨年の12月に大阪府からこちらの案について意見照会がございましたが、前回の審議会でご説明させていただきました内容に沿って ございましたので、前回の審議会で申し上げましたとおり、本市としては異議がないと のことで、既に回答させていただいております。この意見照会につきましては、お手元の議案書8 ページから11ページに、大阪府からの照会文と本市の回答文を添付しておりますので、適 時ご参照ください。

この区域マスですが、都市計画法第6条の2に規定されており、都市計画区域ごとに都市 計画の基本方針を定め、長期的な視点で都市の将来像を示すものとなっております。

今回、区域マスが改定される理由としまして、社会経済情勢が変化したこと、区域マスの 上位計画である第4次大阪府国土利用計画が策定されたこと、平成15年度に策定された区 域マスの目標年次である平成22年度を迎えること、などによるものです。

区域マスの構成としましては、「第1章 都市計画区域マスタープランの概要」、「第2章 都市計画区域の特徴」、「第3章 土地利用に関する方針」、「第4章 都市施設の整備及び市 街地開発事業に関する方針」、「第5章 都市魅力の創造」となっております。

富田林市が含まれる南部大阪都市計画区域につきましては、人口約239万人、面積は約 8万7,000ヘクタールとなっております。

この区域マスの位置付けとしましては、市の都市計画マスタープランの上位計画にあたる もので、市決定の都市計画は、この区域マスに即するものとあります。つきましては、今回 大阪府の区域マスが改定されることに伴いまして、本市の都市計画マスタープランについて も時点修正を行う予定です。その内容等につきましては、本審議会ですぐ報告させていた だきます。

それでは、今回区域マスが改定されることに伴いまして、土地利用といった本市の都市計 画と関わりの深い項目について、説明いたします。お手元の資料の15ページ以降に区域マ ス第3章の「土地利用に関する方針」を添付しておりますので、適時ご参照ください。

土地利用に関する方針につきましては、今後本格的な人口減少・超高齢化社会を迎える中、 住宅系市街地の拡大は基本的に抑制する方針であり、市街化区域への編入は、鉄道駅周辺や 主要な幹線道路沿道の産業系土地利用等に制限する、そして市街化区域に随時編入できる区 域は「保留区域」のみとしています。

この保留区域は、市街化区域へ編入する必要性・見通しが認められるものの、事業実施が 未確実などの理由で市街化区域に編入していない区域のことをいいます。前回の審議会でも ご報告させていただきましたが、本市におきましては、幹線道路沿いである、こちらの2か 所が保留区域として設定されています。

それでは最後に、今後の区域マス変更スケジュールにつきましては、今月の大阪府都市計 画審議会ですぐ審議されまして、3月には都市計画決定の告示がされる予定となっております。

以上で、「報告1 南部大阪都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更について」、 説明を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

《議長：増田会長》

ありがとうございます。昨年何回かご報告させていただいた内容かと思えますけれども、少し事後報告の形になりましたけれども、意見照会があつて、今日再度確認の意味でご説明いただいたということでございます。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

《山内委員》

23ページ、「位置づけ」っていうやつです。これ決していちやもんと受け取られたら困るんですけども、今のところ、総合計画というのは全然位置づけがないんですか、考えられるときに。

大阪府から直接マスタープランになっていきますけれども、富田林にとっての一番の、議会でも議決いただいた総合計画は、最上位計画だと我々は理解しておりますけれども。

《議長：増田会長》

いかがでしょうか。これはたぶん都市計画法上の位置づけを示していると思うんですけども。

《山内委員》

法律とか関係なしに、富田林市役所がこれをどう受け止めているかということです、位置づけを。

《議長：増田会長》

いかがでしょうか。

《事務局：原田》

もちろん市の総合計画というのは、市の都市計画マスタープランの上位計画になりましたて・・・。

《山内委員》

そんなことはわかりきっているんですけど。なぜこれに書かれてないんですかと聞いているんです。

《事務局：原田》

今回の改定を受けまして、市のマスタープランもちょうど中間地点での時点修正の必要があるということを知りやすくお示ししようと思った部分で、直接こういう形の矢印で書かさせていただいたんで、もちろん市の総合計画っていうのが都市計画マスタープランの上位計画で重要なものだという認識は持っておりまして、表示ができてなかったという点につきましては、申し訳なかったと思います。

《山内委員》

今の総合計画がベストだと絶対思っておりません。でも、まちの全体像は今のところ、そこしか書かれてないんです。だからそれを絶対に大事にする姿勢は、どんなところにもでも示していただきたいんです。

《事務局：原田》

わかりました。総合計画の中の都市計画に関することでのマスタープランっていうことですね。

《議長：増田会長》

よろしいでしょうか。当然、都市計画マスタープランを前回は作った時には、市の総合計画をベースにして展開をしておりますので、これから説明をする時もそういう形できっちりとしていただきたいということでございます。

ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

そしたら報告案件2 南部大阪都市計画区域区分等の変更につきまして、今の案とかなり連動しておりますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

《事務局：植木》

まちづくり推進課の植木と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、「報告2」としまして、「南部大阪都市計画区域区分等の変更について」、ご報告させていただきます。

では、前面スクリーンを用いて説明いたします。スクリーンが見にくい場合は、画面の右上にお手元の資料のページを表示しておりますので、そちらもあわせてご覧ください。

先ほど説明いたしました「報告1」の都市計画区域マスタープランと同様、区域区分及び用途地域の変更につきましては、本審議会でも過去にもご報告等させていただきましたが、このたび大阪府からこれらの案の意見照会がありましたので、ご確認のため、改めて説明させていただきます。

では、こちらのスケジュールをご覧ください。区域区分及び用途地域の変更につきましては、先ほどの都市計画区域マスタープランと同様、大阪府の決定事項となっており、昨年12月1日に大阪府からこれらの案の意見照会がございましたが、これまで審議会でご説明させていただきました内容どおりでありましたので、前回の審議会でも申し上げましたとおり、本市としては異議がないとのことで、12月16日に大阪府へ回答させていただいております。この意見照会につきましては、お手元の議案書14ページから22ページに、大阪府からの照会文と本市の回答文を添付しておりますので、適時ご参照ください。

それでは、区域区分、いわゆる線引きと用途地域の変更について、説明いたします。

本市におきましては、区域区分と用途地域の変更区域として、①錦織・伏山・甘山地区、②梅の里・喜志地区、③加太地区、この3地区を候補として大阪府に挙げるという答申を本審議会でもいただいていたのですが、先の意見照会におきましては、これらの候補案がすべて反映されていまして、ご報告いたします。では、それぞれの地区について説明いたします。

まず、①錦織・伏山・甘山地区につきましては、こちらの地図に示しています伏山三丁目

のソルフェスタ金剛自治会と金剛錦織台として住宅地開発された区域の合計約9.1ヘクタールを市街化調整区域から市街化区域に編入するもので、用途地域は、無指定から第1種低層住居専用地域となり、建ぺい率50パーセント、容積率100パーセント、絶対高さ10メートル、外壁後退1メートルという規制になります。

続きまして、②梅の里・喜志地区につきましては、市街化区域と市街化調整区域の境界は地形地物で区切るという原則に合っていなかったため、境界線の見直しを行うものです。その結果、市街化区域の面積は約0.2ヘクタール減少し、市街化調整区域となる部分の用途は無指定となります。

続きまして、③加太地区につきましては、区域区分の変更はなく、用途地域につきましても現在の第1種低層住居専用地域のままですが、こちらの表のとおり、建ぺい率を40パーセントから60パーセントに、容積率を80パーセントから150パーセントに、絶対高さは10メートルのまま、外壁後退を1.5メートルから「なし」とします。また、こちらの地区につきましては、よりよい住環境を保つため、都市緑地法に基づく緑地協定を今年の3月中に締結する予定です。

以上により、本市の区域区分につきましては、市街化区域の面積が約1,579ヘクタールから約1,588ヘクタールとなります。

最後に、今後のスケジュールですが、今月に大阪府の都市計画審議会で審議され、3月には都市計画決定の告示がされる予定となっています。

以上で、「報告2 南部大阪都市計画区域区分等の変更について」、説明を終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

《議長：増田会長》

ありがとうございます。この審議会で過去議論をしてきて、こういう形で答申を出したわけですけども、それが府の方で反映された形になりましたというご報告でございます。

よろしいでしょうか。

《司委員》

今、報告1と2とを聞かせていただきまして、先ほどの議案1号の時にもいろんな委員の方からこの都市計画に関しての話がありました。いま、報告1、2を受けまして、やはりこの都市計画マスタープランに基づいて、先ほどおっしゃってはる法に基づいてどんどん進んでいっているのは、とてもいいことだとは思いますが、今回この区域区分の整備とかありましたけれども、3か所あったわけですが、特に一番最初の錦織・甘山・伏山の今の錦織台のところですが、ここは他の地域と違って、梅の里の方もちょっと丘みたいになっているんですけども、ここは向こうの美原の方に抜ける道はちゃんとございます。そういった面では、すごく変則的な道路形態にもなっています。

確かに近隣の地域住民の意見というのは、最大限に尊重していかなければならないと私も思っておりますが、都市計画マスタープランの中で、法的な部分だけじゃなくて、先ほどおっしゃってはった事業計画法の方とおっしゃってはりましたよね、さっき会長さんが。ということは、やはりそういう面では、まちづくりがすごくやっぱり大事になってくると思うん

ですね。そういう中で、今回ここの地域の方、いろんな声を聞かせていただきます。そういう中で、開発をしていくのはいいことだと思うんです、マスタープランに基づいてされるのはいいんですけれども。住まわれている住民の生活環境というの、やはり併用して考えていくことも、先ほどおっしゃってましたが、都市計画マスタープランには大きな一つの要因があるのではないかと思うんです。

ちなみにこういった高台で開発されているところっていうのは、確かに河内長野でも山間で大きく開発されてます。そういったところは、必ず交通機関が通れるように、上の方で空間の土地を、駐車場っていうんですか、土地利用をされて公共の施設が通るようになっているとか、そういった工夫がされてます。

この錦織台っていうのは、当初は、また違うかもわかりませんが、今現在は道路が通り抜けがどこもできてません。そういった中でやはり住民の快適な生活をしていくためには、そういった部分で、しっかり縦割りじゃなくて、いろんな中で協議をしていただくことがすごく大事だと思うんです。

だからこういうことが、どんどん区域区分だけが進んでいけば、確かに錦織台のところも、今回区分が変わりますけれども、本当に道路も大変です。

そういったところもやはり考えながら、住民の生活を守っていくために、安心な生活ができるような、そういったところも併用して考えていただきたいなっていうのが私としての意見でございますので、今後こういったこともしていただきたいなと思うんですが、その辺は何か、こういう区分の変更にあたって考えられていることはありますか。

《議長：増田会長》

事務局いかがでしょうか。

《事務局：仲野》

今回、区域区分がこの案件ということで出ているんですけども、先ほどの報告1の中でも、山内委員からもご指摘あったんですけども、やはり上位計画が改正された、本市の都市計画マスタープランも平成19年3月に施行してからほぼ5年、ちょうど中間地点に来てるということもありまして、ましてや先ほど言うてました都市計画法自体ができてからもう三十年、四十年経ってきた中で、例えば都市計画道路一つに対しても、かなり今いろんな意味合いを持っているような状況になってきています。

そういうことも含めて、マスタープランの時点修正、重点項目としてどこまで整備できてきたんかというところも、当然、現状把握もしていかなあきませんし、これから先を見据えた富田林のまちづくりってすごい難しいと思うんですけども、そういうことも踏まえて、いろいろ検討していかなあかなというふうには事務局では考えております。

当然、今後そういう作業を進めていく中で、先ほども申しましたとおり、この審議会の中でご報告させていただいて、実際どこまで山内委員おっしゃるみたいなそういう組織の場ができるんかということもあるかと思うんですけども、そういうことも含めてこれからいろいろ検討していきたいとは思っております。

あと、道路の話をいろいろ司委員されてましたんですけども、これはちょっと都市計画

とは違う部分で、開発許可という部分も当然出てきますので、その許可基準っていうところで、どういう形でないと許可が下りないという部分もありますので、そこの連携っていうのも含めて、いろいろまた検討していかなあかなというふうに考えています。

以上でよろしいですか。

《司委員》

そういった中で、住民の方が生活しやすいような、そういうふうなことをしっかり検討していただくように要望しておきます。

《議長：増田会長》

ありがとうございました。よろしいでしょうか。ほかご意見ございませんでしょうか。

そしたら、最後の報告案件でございますけれども「南部大阪都市計画ごみ焼却場等の変更について」ということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

《事務局：鷹野》

まちづくり推進課の鷹野と申します。よろしくお願ひいたします。

「報告3」といたしまして、「南部大阪都市計画ごみ焼却場等の変更について」報告させていただきます。

スクリーンが見えにくい場合は、右上に表示されます、資料のページ番号をご参照ください。

今回の報告案件でございますが、ごみ焼却場とし尿処理場を管理・運営しておりました、南河内清掃施設組合と富美山環境事業組合の統合により、発足となった南河内環境事業組合への組合名の変更による都市計画施設名の変更となります。

組合名変更の経緯といたしましては、南河内清掃施設組合と富美山環境事業組合の構成団体であった美原町が堺市と合併したことにより、平成22年3月31日をもって、堺市が両組合から脱退いたしました。そこで、堺市脱退に伴う構成団体の負担増加の軽減、組合事務の効率化等を目的として、平成22年4月1日に両組合が統合、南河内環境事業組合が発足されることとなりました。現在では南河内環境事業組合が、ごみ焼却場とし尿処理場の管理・運営を行っております。今回の変更は、これらの経緯を受けて都市計画施設の名称変更を行うものです。

それでは、変更の詳細の説明に移りたいと思ひます。前面スクリーンに写されます、新旧対照表は議案書24ページにも添付してありますので、そちらも参考にご覧ください。

まず、南河内清掃施設組合第2焼却場でございますが、河内長野市日野に位置しております。これを、南河内清掃施設組合第2焼却場から、南河内環境事業組合第2清掃工場へ名称変更するものです。

続きまして、狭山汚物処理場でございますが、大阪狭山市東池尻に位置しております。これを、狭山汚物処理場から、南河内環境事業組合資源再生センターへ名称変更するものです。

変更点は以上となります。なお、今回の変更は、このように組合名の変更による都市計画施設の名称変更を行うものであり、実質の内容についての変更はございません。

以上で「報告3」といたしまして、「南部大阪都市計画ごみ焼却場等の変更について」の説明を終わります。

《議長：増田会長》

はい、どうもありがとうございました。名称変更ということでございましたけれども、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

一応、今日、準備しておりました案件に関しましては、すべて終了いたしましたけれども、この際ですから何かご意見ございますでしょうか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、第4回富田林市都市計画審議会を終了したいと思いますけれども、今日は非常に今後に向けて有意義なご意見をたくさんいただきました。その中で特に、やはり粛々と法律に基づいて手続きをしていくという使命もこの審議会にはございますけれども、一方ではきっちりと意見交換をして議論をして、それを案に反映していくという、そういうことができる審議会へ少しずつ衣替えしていく必要があるんじゃないかというご指摘を何点もいただいておりますので、極力そういう方向で、ここで議論ができる場へというふうな形へ事務局とご相談しながら、徐々に変更させていきたいと思っておりますので、これからもご協力のほどをお願いしたいと思います。

それでは本日の審議会をこれで終了させていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。